

自己評価結果公表シート（令和4年度）

東豊中幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・一人ひとりを大切に、遊びと生活を通して子どもたちの「積極的に生きる力」「自律性」を育てる。
- ・遊びや生活の中で、自分で考えて決める力を育てる。
- ・思いやりをもって人と関わる力を育てる。
- ・自分を大切に思う心を育てる。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・教職員を育成するための組織体制を築き、それぞれの経験年数により必要な研修を計画する。また、職員一人ひとりが主体的に学び合い、全体の資質向上に繋げる。
- ・教育理念に基づいた子どもの経験と活動を大切にし、教材研究を行いカリキュラム計画をたてる。
- ・教職員の危機管理意識が向上できるよう様々なシチュエーションを想定し訓練を行う。
- ・預かり保育の体制を見直し、環境を整える。
- ・保護者と園がつながる新しい取り組みを取り入れる。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
保育者の質の向上・ 新人研修の基盤づくり	<ul style="list-style-type: none">・経験年数に合わせた外部研修に参加し、学んだ事柄を園内で実践する機会を大切にした。それぞれが組織のチームワークづくりに貢献し、自ら同僚に働きかけることで自身の教員としてのプロ意識を向上させ、全体の質の向上に努めた。・1年目メンターを配置し、新任教職員が園の一員として園理解を深められるよう研修の年間計画をたて、行った。また新人職員一人ひとりとは対話する時間を持ち、それぞれが自己発揮できるよう日々のフォローアップに努めた。・若手教職員の考えやアイデアを肯定的に受け止め、向上心を育てるよう努めた。
教育理念に基づいたカリキュラム計画	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症対策で控えている活動（プールあそび、クッキング等）での子どもの経験と育ちを教育課程をもとに職員で確認し、活動の形をかえて継続できるよう教材研究と工夫を重ねた。また、子どもの姿を動画に収め、動画配信をして保護者に共有したり、園内研修で取り上げ職員間で学びを深められるよう活動を見直したりする時間を設けた。
危機管理意識の向上	<ul style="list-style-type: none">・非常災害時に備え、様々なシチュエーション（火災・地震・不審者対応など）を想定した訓練を行い、職員の連携がとれる体制を確認し、危機管理意識が高められるようにした。また、園内の備蓄用品や緊急時に必要な諸道具を整えた。また、様々な災害時マニュアルを職員で都度共有し、訓練を月に1回実施した。・保護者にも協力を呼びかけ引き渡し訓練や災害を想定したテストメール配信を行った。

<p>預かり保育の体制見直しと 室内環境整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが安定した環境の中で過ごせるよう、預かり保育担当職員を固定し、子どもたちの育ちを継続的に支えられる職員配置にした。また、預かり保育中の子どもの経験や育ちも保護者に伝わるよう写真や諸手紙等で発信し、子どもの様子を保護者と共有することを大切にした。 ・利用園児数に合わせ、保育環境の充実を図ったり、職員の体制を整えたり、子どもが安心して過ごせる保育環境の見直しを行った。
<p>保護者と園がつながる新しい 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が先生として保育参加する“いちご先生”の継続に加え、朝の自由遊びの時間に保育参加してくださる“つなガールとあそボーイ”を募集し、子どもたちの遊びの充実に努めた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

コロナウイルス感染症の流行を受け、保育活動で制限せざるを得ない実情があったが、変化する社会の状況に合わせ、職員でアイデアを出し合い実施方法を見直したり、新たな取り組みをしたりし、保育実践することができた。

園で育ち合う子どもの姿を幼児教育実践学会で職員2名がポスター発表をした。それらの取り組みを教職員全員で振り返り、本園が大事にしている教育目標を共有できたことで、職員が同じ保育観をもち、日々保育することができた。

5. 今後取り組むべき課題

- ◇子どもの姿に合わせた環境づくりを進める。
- ◇保護者と園が繋がる取り組みを充実させる。
- ◇職員の働き方改革を進める。（休憩時間の確保・バス添乗職員の動員）
- ◇教職員間の情報共有が徹底できるよう努める。

6. 学校関係者の評価

昨年に引き続き、コロナ禍で心配や不安がある日常の中、保護者が安心して子どもを通わせることができるよう、日々の社会の状況に合わせて適宜感染症対策を見直し、情報を共有、発信したことから保護者理解が得られたと考える。手紙やホームページで遊びや活動の様子を伝えること、写真や動画を使った子どもの姿を発信すること、子どもたちの様子を日々丁寧に連絡することで保護者に園が大切にしていることをより理解してもらえるようになったと考えている。保護者とコミュニケーションを築き、理解を得られたことで保育者自身も志を高くもち、保育に臨むことが出来た。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。